

陸連時報 三

2018
平成30年

9

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

ジャカルタ2018アジア競技大会(トラック・フィールド日本代表選手).....	230
第17回U20世界陸上競技選手権大会報告.....	233
(強化委員会強化育成部U20コーディネーター 大橋祐二)	
ユースオリンピックアジア地区予選大会(バンコク/タイ)報告.....	234
(強化委員会U20オリンピック強化コーチ 杉井将彦)	
第5回日中韓3カ国交流陸上競技大会報告(監督 山崎一彦).....	237
JAAFアスリート発掘・育成プロジェクトU13アスリートクリニック福井会場.....	238
(普及育成委員会普及育成部部长 桜井智野風)	
クロスカントリーランin砦公園(#キヌクロ).....	240
夏のOTTは「キヌクロ」です(オトナのタイムトライアル事務局).....	241
大会観戦ガイド.....	242
陸協NEWS.....	244
事務局からのお知らせ.....	246

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

ジャカルタ2018 アジア競技大会

トラック・フィールド日本代表選手

2018年6月25日発表分

●男子 29名



山縣 亮太 (ヤマガタ・リョウタ)
過去出場年: 2014
所属: セイコー
登録陸協: 東京
生年月日: 1992/6/10
身長/体重: 177 / 73
資格記録: 10.05 資格種目: 100m



木村 淳 (キムラ・ジュン)
過去出場年: 初出場
所属: 大阪ガス
登録陸協: 大阪
生年月日: 1991/5/26
身長/体重: 176 / 67
資格記録: 46.08 資格種目: 400m



ケンブリッジ 飛鳥 (ケンブリッジ・アスカ)
過去出場年: 初出場
所属: Nike
登録陸協: 東京
生年月日: 1993/5/31
身長/体重: 180 / 77
資格記録: 10.12 資格種目: 100m



川元 奨 (カワモト・ショウ)
過去出場年: 2014
所属: スズキ浜松AC
登録陸協: 静岡
生年月日: 1993/3/1
身長/体重: 175 / 68
資格記録: 1:47.16 資格種目: 800m



飯塚 翔太 (イヅカ・ショウタ)
過去出場年: 2014
所属: ミズノ
登録陸協: 静岡
生年月日: 1991/6/25
身長/体重: 186 / 81
資格記録: 20.34 資格種目: 200m



村島 匠 (ムラシマ・タクミ)
過去出場年: 初出場
所属: 福井県スポーツ協会
登録陸協: 福井
生年月日: 1995/10/1
身長/体重: 178 / 70
資格記録: 1:47.01 資格種目: 800m



小池 祐貴 (コイケ・ユウキ)
過去出場年: 初出場
所属: ANA
登録陸協: 東京
生年月日: 1995/5/13
身長/体重: 173 / 74
資格記録: 20.42 資格種目: 200m



館澤 亨次 (タテザワ・リョウジ)
過去出場年: 初出場
所属: 東海大学
登録陸協: 神奈川
生年月日: 1997/5/16
身長/体重: 173 / 63
資格記録: 3:40.49 資格種目: 1500m



ウォルシュ ジュリアン (ウォルシュ・ジュリアン)
過去出場年: 初出場
所属: 東洋大学
登録陸協: 埼玉
生年月日: 1996/9/18
身長/体重: 175 / 73
資格記録: 45.63 資格種目: 400m



金井 大旺 (カナイ・タイオウ)
過去出場年: 初出場
所属: 福井県スポーツ協会
登録陸協: 福井
生年月日: 1995/9/28
身長/体重: 180 / 72
資格記録: 13.36 資格種目: 110mH



桐生 祥秀 (キリュウ・ヨシヒデ)
過去出場年: 初出場^{注1}
所属: 日本生命
登録陸協: 東京
生年月日: 1995/12/15
身長/体重: 175 / 70
資格記録: 10.15 資格種目: 100m



高山 峻野 (タカヤマ・シュンヤ)
過去出場年: 初出場
所属: ゼンリン
登録陸協: 神奈川
生年月日: 1994/9/3
身長/体重: 182 / 76
資格記録: 13.45 資格種目: 110mH



多田 修平 (タダ・シュウヘイ)
過去出場年: 初出場
所属: 関西学院大学
登録陸協: 大阪
生年月日: 1996/6/24
身長/体重: 176 / 66
資格記録: 10.22 資格種目: 100m



安部 孝駿 (アベ・タカトシ)
過去出場年: 初出場
所属: デサントTC
登録陸協: 岡山
生年月日: 1991/11/12
身長/体重: 192 / 82
資格記録: 48.68 資格種目: 400mH



山下 潤 (ヤマシタ・ジュン)
過去出場年: 初出場
所属: 筑波大学
登録陸協: 福島
生年月日: 1997/8/23
身長/体重: 183 / 69
資格記録: 20.46 資格種目: 200m



岸本 鷹幸 (キシモト・タクユキ)
過去出場年: 2014
所属: 富士通
登録陸協: 東京
生年月日: 1990/5/6
身長/体重: 171 / 61
資格記録: 49.30 資格種目: 400mH



塩尻 和也 (シオジリ・カズヤ)
過去出場年：初出場
所属：順天堂大学
登録陸協：群馬
生年月日：1996/11/8
身長/体重：170 / 54
資格記録：8:29.14 資格種目：3000mSC



城山 正太郎 (シロヤマ・ショウタロウ)
過去出場年：初出場
所属：ゼンリン
登録陸協：北海道
生年月日：1995/3/6
身長/体重：178 / 65
資格記録：7:95 資格種目：走幅跳



山口 浩勢 (ヤマグチ・コウセイ)
過去出場年：初出場
所属：愛三工業
登録陸協：愛知
生年月日：1991/8/19
身長/体重：172 / 60
資格記録：8:34.40 資格種目：3000mSC



山下 航平 (ヤマシタ・コウヘイ)
過去出場年：初出場
所属：ANA
登録陸協：東京
生年月日：1994/9/6
身長/体重：179 / 69
資格記録：16:59 資格種目：三段跳



戸邊 直人 (トベ・ナオト)
過去出場年：2014
所属：つくばTP
登録陸協：茨城
生年月日：1992/3/31
身長/体重：193 / 72
資格記録：2:30 資格種目：走高跳



湯上 剛輝 (ユガミ・マサテル)
過去出場年：初出場
所属：トヨタ自動車
登録陸協：愛知
生年月日：1993/4/14
身長/体重：183 / 107
資格記録：6:21.6 資格種目：円盤投



衛藤 昂 (エトウ・タカシ)
過去出場年：2014
所属：味の素AGF
登録陸協：三重
生年月日：1991/2/5
身長/体重：183 / 68
資格記録：2:25 資格種目：走高跳



新井 涼平 (アライ・リョウヘイ)
過去出場年：2014
所属：スズキ浜松AC
登録陸協：静岡
生年月日：1991/6/23
身長/体重：183 / 94
資格記録：80.60 資格種目：やり投



山本 聖途 (ヤマモト・セイト)
過去出場年：2014
所属：トヨタ自動車
登録陸協：愛知
生年月日：1992/3/11
身長/体重：181 / 72
資格記録：5:70 資格種目：棒高跳



右代 啓祐 (ウシロ・ケイスケ)
過去出場年：2010/2014
所属：国士館クラブ
登録陸協：東京
生年月日：1986/7/24
身長/体重：196 / 94
資格記録：79:48 資格種目：十種競技



竹川 倅生 (タケカワ・コウセイ)
過去出場年：初出場
所属：法政大学
登録陸協：静岡
生年月日：1997/12/16
身長/体重：174 / 62
資格記録：5:60 資格種目：棒高跳



中村 明彦 (ナカムラ・アキヒコ)
過去出場年：2014
所属：スズキ浜松AC
登録陸協：静岡
生年月日：1990/10/23
身長/体重：180 / 73
資格記録：78:49 資格種目：十種競技



橋岡 優輝 (ハシオカ・ユウキ)
過去出場年：初出場
所属：日本大学
登録陸協：東京
生年月日：1999/1/23
身長/体重：183 / 76
資格記録：8:09 資格種目：走幅跳

※マラソン代表(2名)、競歩代表(4名)は発表済

注1：2014年に代表として選出されたが、故障のため代表を辞退

●女子 20名



福島 千里 (フクシマ・チサト)
過去出場年：2010/2014
所属：セイコー
登録陸協：東京
生年月日：1988/6/27
身長/体重：166 / 52
資格記録：11:42 資格種目：100m
資格記録：23:35 資格種目：200m



世古 和 (セコ・ノドカ)
過去出場年：初出場
所属：CRANE
登録陸協：三重
生年月日：1991/7/28
身長/体重：154 / 49
資格記録：11:50 資格種目：100m



市川 華菜 (イチカワ・カナ)
過去出場年：2014^{※2}
所属：ミズノ
登録陸協：愛知
生年月日：1991/1/14
身長/体重：164 / 51
資格記録：11:43 資格種目：100m



御家瀬 緑 (ミカセ・ミドリ)
過去出場年：初出場
所属：恵庭北高校
登録陸協：北海道
生年月日：2001/6/2
身長/体重：161 / 50
資格記録：11:63 資格種目：100m



川田 朱夏 (カワタ・アヤカ)
過去出場年：初出場
所属：東大阪大学
登録陸協：大阪
生年月日：1999/8/22
身長／体重：165／46
資格記録：53.50 資格種目：400m



北村 夢 (キタムラ・ユメ)
過去出場年：初出場
所属：エディオン
登録陸協：広島
生年月日：1995/12/23
身長／体重：162／48
資格記録：2:02.54 資格種目：800m



塩見 綾乃 (シオミ・アヤノ)
過去出場年：初出場
所属：立命館大学
登録陸協：京都
生年月日：1999/11/26
身長／体重：161／45
資格記録：2:02.73 資格種目：800m



鍋島 莉奈 (ナベシマ・リナ)
過去出場年：初出場
所属：日本郵政グループ
登録陸協：東京
生年月日：1993/12/16
身長／体重：160／45
資格記録：15:10.91 資格種目：5000m



山ノ内 みなみ (ヤマノウチ・ミナミ)
過去出場年：初出場
所属：京セラ
登録陸協：鹿児島
生年月日：1992/12/21
身長／体重：171／54
資格記録：15:21.31 資格種目：5000m



堀 優花 (ホリ・ユウカ)
過去出場年：初出場
所属：パナソニック
登録陸協：神奈川
生年月日：1996/6/13
身長／体重：155／39
資格記録：32:05.52 資格種目：10000m



青木 益未 (アオキ・マズミ)
過去出場年：2014
所属：七十七銀行
登録陸協：宮城
生年月日：1994/4/16
身長／体重：167／62
資格記録：13.17 資格種目：100mH



柴村 仁美 (シムラ・ヒトミ)
過去出場年：初出場
所属：東邦銀行
登録陸協：福島
生年月日：1990/11/8
身長／体重：167／56
資格記録：13.18 資格種目：100mH



宇都宮 絵莉 (ウツノミヤ・エリ)
過去出場年：初出場
所属：長谷川体育施設
登録陸協：兵庫
生年月日：1993/4/11
身長／体重：167／55
資格記録：56.84 資格種目：400mH



石澤 ゆかり (イシザワ・ユカリ)
過去出場年：初出場
所属：エディオン
登録陸協：広島
生年月日：1988/4/16
身長／体重：169／49
資格記録：9:53.22 資格種目：3000mSC



勝山 眸美 (カツヤマ・ヒトミ)
過去出場年：初出場
所属：オリコ
登録陸協：東京
生年月日：1994/5/21
身長／体重：161／75
資格記録：65.32 資格種目：ハンマー投



渡邊 茜 (ワタナベ・アカネ)
過去出場年：初出場
所属：丸和運輸機関
登録陸協：福岡
生年月日：1991/8/13
身長／体重：173／73
資格記録：65.24 資格種目：ハンマー投



斉藤 真理菜 (サイトウ・マリナ)
過去出場年：初出場
所属：スズキ浜松AC
登録陸協：静岡
生年月日：1995/10/15
身長／体重：164／65
資格記録：60.79 資格種目：やり投



宮下 梨沙 (ミヤシタ・リサ)
過去出場年：初出場
所属：大体大T.C
登録陸協：大阪
生年月日：1984/4/26
身長／体重：171／73
資格記録：60.71 資格種目：やり投



山崎 有紀 (ヤマサキ・ユキ)
過去出場年：初出場
所属：スズキ浜松AC
登録陸協：静岡
生年月日：1995/6/6
身長／体重：165／58
資格記録：58.36 資格種目：七種競技



ヘンピル 恵 (ヘンピル・メグ)
過去出場年：初出場
所属：中央大学
登録陸協：京都
生年月日：1996/5/23
身長／体重：168／59
資格記録：57.66 資格種目：七種競技

※マラソン代表(2名)、競歩代表(1名)は発表済

注2：リレー代表として出場

第17回U20世界陸上競技選手権大会

強化委員会強化育成部 U20 コーディネーター 大橋祐二 (帝京平成大学)

1. はじめに

第17回U20世界陸上競技選手権大会は、2018年7月10日から7月15日までタンペレ（フィンランド）で開催された。日本は、金メダル2個（男子走幅跳・橋岡優輝、女子3000m・田中希実）、銀メダル2個（女子走幅跳・高良彩花、女子やり投・桑添友花）、銅メダル2個（男子110mH・泉谷駿介、男子棒高跳・江島雅紀）を獲得し、メダルテーブルでは第8位と過去最高成績となった（表1）。また、プレイングテーブル（1位から8位を得点化した国別対抗ポイント）は第7位となり（表2）、前々回大会4位に次ぐ過去2番目の好成績を取めた。

日本選手団は7月4日に成田に集合し、翌5日に約10時間のフライトでフィンランド・ヘルシンキへ移動、そこから約2時間のバス移動で開催地タンペレへ到着した。成田からヘルシンキは直通便が運航しているため、ヨーロッパでありながらもスムーズな移動に感じられた。

2. 選手選考

選手選考会議は、全国高等学校総合体育大会ブロック地区予選が全ての地区で終了した6月19日に行われた。事前に強化育成部が設定した入賞が期待される記録（過去の入賞記録から強化育成部が作成）とIAAFが公表している参加標準記録、更にシニアの強化カテゴリーを意識した選考ポリシーに照らし合わせて選考を行った。選考においては、今年度の指定された選考競技会での記録を重視した。選手選考の結果、社会人・大学生36名、高校生10名と過去の大会と比較しても大学生の割合が高いチーム編成となった。

3. 現地の環境

フィンランド第二の都市であるタンペレは、北緯61度と緯度では北海道よりも北に位置しており、気温は日中

20℃以上で25℃を超える日もあったが、晴天の場合には湿度が50%以下と非常に低く、過ごしやすい気候であった。競技は午前・午後に分けて行われ、午前の部は9時から13時、午後の部は日によって異なったがおおよそ16時から20時という時間帯であった。白夜のため、競技時間が遅くなくても気温が目立って低くなることはなく、どの種目にも概ね良いコンディションであった。ただし、夕方にスコールのあった4日目は、その直後一気に気温が下がった。

宿泊したホテルは、スタジアムから徒歩7～8分の距離であった。そのため、スタジアムを往復するシャトルバスは準備されず、毎回徒歩での移動となった。タンペレはフィンランド第二の都市ということもあり、治安も良く徒歩圏内にコンビニエンスストアやショッピングモールがあり、日本とそれほど大きな環境の変化はなかった。食事は、三食ともにビュッフェ形式であったが、曜日ごとにメニューが固定されていた。また、朝食が最も充実しており、昼食と夕食はやや物足りない内容であったため、長期の滞在で飽きてしまう選手もおり、各々補食等で対応していた。

メインスタジアムおよびサブトラックは、どちらもMONDO社のスーパー Xであった。しかし、サブトラックは直線120m、6レーンのみと、メインスタジアムと同等のサブトラックを有する日本の環境との差に、戸惑う選手は多くいたように感じた。

また、練習ではメインスタジアムを使うことができないため、120mのサブトラック、ホテルからバスで5分程度の屋外350mトラック（投擲練習不可）、バスで10分程度の投擲場が併設された屋内300mトラックのいずれかで実施した。大会側から十分な本数のバスが準備されておらず、自身の希望する練習時間の変更を余儀なくされる選手もいた。

4. 戦力分析

1) 自己記録達成率

全選手の結果を自己記録（以下、PB）に対する達成率でみると、男子は97.8±2.9%、女子は97.1±4.1%であった（表3）。また、今大会でPBを更新した選手は、男子6名、女子4名（国内と規格が異なる種目も対象とする）であった。今大会における8位入賞記録および決勝進出記録をみると、準決勝でPBを出すことができれば、ほぼ全選手が入賞可能である。このことは、国際大会においても勝負のなかった場面で自分の力を出し切れることが入賞に繋がることを示している。

2) メダルテーブル過去最高成績

男子走幅跳の橋岡優輝（日本大学）は、予選を含め終始安定した跳躍をみせ、同種目初の金メダルを獲得した。優勝を決めた後の最終跳躍では、着地でミスがあったもののそれがなければ8m20前後の大ジャンプであった。女子3000mの田

表1 メダルテーブル (上位10ヶ国+日本)

順位	国名	金	銀	銅	合計
1	ケニア	6	4	1	11
2	ジャマイカ	4	5	3	12
3	アメリカ	3	8	7	18
4	エチオピア	3	2	4	9
5	イギリス	3	1	3	7
6	南アフリカ	3	0	1	4
7	オーストラリア	2	3	0	5
8	日本	2	2	2	6
9	ドイツ	2	0	2	4
10	メキシコ	2	0	0	2

表2 プレイングテーブル (上位10ヶ国)

順位	国名	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	合計
1	アメリカ	3	8	7	0	1	5	6	2	155
2	ケニア	6	4	1	2	4	0	1	2	112
3	ジャマイカ	4	5	3	1	1	1	2	0	101
4	エチオピア	3	2	4	2	5	2	0	0	98
5	ドイツ	2	0	2	5	3	2	3	3	80
6	イギリス	3	1	3	1	2	3	4	1	80
7	日本	2	2	2	3	2	1	2	3	75
8	オーストラリア	2	3	0	2	3	2	3	0	71
9	中国	1	1	0	3	2	5	2	0	57
10	フランス	0	1	2	4	2	1	0	2	52

中希実 (ND28AC) は、和田有葉 (名城大学) とともに序盤から先頭に飛び出し、自分たちのペースでレースを作り、そのままエチオピア勢の猛追を振り切るという「日本人が勝つにはこれしかない」というまさに戦略の勝利であった。

女子走幅跳の高良彩花 (園田学園高校) は、スコールの後、急激に気温の下がった中での競技開始であったが、2本目に6m37を記録し、優れた試合展開をみせた。気温や天候を考えると、自己記録以上のパフォーマンスを発揮したであろう。

女子やり投の桑添友花 (筑波大学) は、肘の痛みと戦いながらの試合となったが、メディカルスタッフと選手・コーチが綿密に連絡を取り合い、自己記録に近いパフォーマンスを発揮し、銀メダルを獲得した。

男子110mHの泉谷駿介 (順天堂大学) は、春先からハイハードル (106.7cm) で水戸グランプリを制するなど非常に好調であったが、日本選手権は予選落ちするなど、やや調子を落としている感じがあった。予選・準決勝とも、本来の力強いインターバルランがみられなかったが、決勝では良い意味で荒々しい走りに戻り、同種目2大会連続のメダルを獲得した。

男子棒高跳の江島雅紀 (日本大学) は、5m40と5m55を3回目に越える粘り強い跳躍をみせ、シーズンベストでの銅メダル獲得となった。

奇しくも、前回大会にも出場した橋岡、田中、江島の3名全員がメダル獲得となった。このことから、U20世代で

の国際大会での「経験」は、大舞台で力を発揮するための大きな武器になると考えられる。

3) 科学委員会との連携

今大会には前回、前々回大会に続き、日本陸上競技連盟科学委員会から5名のスタッフが派遣され、可能な限りコーチへのフィードバックにご協力いただいた。また、各セッション後は、選手の映像を2台のiPad (トラック用・フィールド用) へ転送し、トレーナールームでいつでも視聴可能という方法を取った。今回選出された選手の中には、普段の練習からスマートフォンなどで映像を利用している者も多く、パフォーマンスへは好影響であったと思われる。

5. 今後の課題

今大会では高校生が苦戦を強いられた。一方で、大学生は地区インカレや学生個人選手権など、自分よりも強い選手と予選から戦う機会が多く、予選ラウンドから自己記録に近い記録を出す選手が多かった。今大会に派遣された高校生は、インターハイ地区予選で記録的に突出している場合が多く、予選から全力で行く準備を経験したことが少ない。その点は、今後の糧として強化育成部のスタッフに共有し、対応策を練る必要がある。

6. 最後に

今大会の派遣期間が約2週間と長く、選手はじめスタッフにも大変なご迷惑をおかけした。東京オリンピックが2年後と迫る中、選手同様コーチングスタッフにもコーチングに集中できるような環境整備が必要となると感じた。

表3 U20 世界陸上競技選手権大会 (2018 / タンペレ) 日本選手団 競技結果

男子	種目	氏名	所属	自己ベスト	達成率(%)	日付	予選		準決勝		決勝			
							日付	結果	日付	結果	日付	結果		
1	100m	宮本 大輔	東洋大学	10.23	99.0	7/10	10.50 +1.1m/s (2/h)	準決勝進出	7/11	10.33 +1.0m/s (3/h1)	決勝進出	7/11	10.43 +1.2m/s 8位入賞	
2	100m	福島 聖	富山大学	10.34	100.1	7/10	10.37 +0.5m/s (3/h3)	準決勝進出 SB	7/11	10.33 +1.4m/s (4/h2)	落選	PB	7/11	
3	200m	安田 圭吾	大東文化大学	20.88	98.5	7/12	21.20 +0.4m/s (3/h2)	準決勝進出	7/12	21.28 -0.6m/s (6/h1)	落選	7/13		
4	200m	上山 紘輝	近畿大学	20.94	99.5	7/12	21.04 -0.9m/s (2/h1)	準決勝進出	7/12	21.24 -0.3m/s (4/h3)	落選	7/13		
5	400m	澤 大地	専攻東高等学校	47.69	99.0	7/11	48.15 (7/h2)	落選	7/12		7/13			
6	400m	森 周志	北海道崇高等学校	46.95	97.6	7/11	48.12 (6/h4)	落選	7/12		7/13			
7	5000m	中谷 雄飛	早稲田大学	13:47.2	94.0						7/14	14:39.78 17位		
8	10000m	三浦 拓朗	中央大学	29:22.1	97.2						7/10	30:12.25 9位		
9	110mH	泉谷 駿介	順天堂大学	13.49	100.8	7/11	13.86 +0.3m/s (2/h4)	準決勝進出	7/11	13.57 +0.2m/s(4/h2)	決勝進出	7/12	13.38 +0.3m/s 銅メダル PB	
10	110mH	平賀健太郎	明治大学	13.46	97.5	7/11	13.80 +0.7m/s (4/h3)	準決勝進出	7/11	13.93 -0.5m/s (5/h1)	落選	7/12		
11	400mH	白尾 悠祐	順天堂大学	50.36	98.3	7/12	52.09 (2/h6)	準決勝進出	7/13	51.21 (5/h2)	落選	7/14		
12	400mH	後藤 颯汰	五島高校	51.37	97.9	7/12	52.48 (4/h1)	落選	7/13		7/14			
13	3000mSC	吉田 匠	早稲田大学	8:51.66	99.2	7/12	8:56.64 (6/h2)	決勝進出			7/15	8:50.99 5位入賞 PB		
14	3000mSC	人見 昂誠	法政大学	8:52.14	96.4	7/12	9:11.99 (9/h1)	落選			7/15			
15	10000mW	坂崎 翔	平成国際大学	39:52.5	95.3						7/14	41:50.91 8位入賞		
16	10000mW	長山 達彦	東洋大学	40:55.1	97.5						7/14	41:58.12 10位		
17	走高跳	友利 響平	環太平洋大学	2.16	101.4	7/12	2.12 (7/B)	決勝進出			7/14	2.19 7位入賞 PB		
18	走高跳	東 直輝	立命館大学	2.19	98.6	7/12	2.15 (1/A)	決勝進出			7/14	2.16 10位		
19	棒高跳	江島 雅紀	日本大学	5.65	98.2	7/11	5.20(3/A)	決勝進出			7/14	5.55 銅メダル SB		
20	棒高跳	尾崎 駿翔	日本体育大学	5.2	100.0	7/11	5.20(2/B)	決勝進出 PBタイ			7/14	5.20 10位 PB		
21	走幅跳	橋岡 優輝	日本大学	8.09	99.3	7/10	7.92 +1.1m/s (1/A)	決勝進出			7/11	8.03 +0.9m/s 金メダル		
22	走幅跳	酒井 由吾	慶応義塾大学	7.68	101.4	7/10	7.69 +2.0m/s (2/B)	決勝進出 PB			7/11	7.79 +1.7m/s 5位入賞 PB		
23	三段跳	秋山 裕樹	川崎市立橋高等学校	15.74	99.7	7/13	15.70 +0.1m/s (5/A)	決勝進出			7/14	15.40 +1.0 m/s 10位		
24	円盤投	山下 航生	市立岐阜商業高等学校	56.51	95.1	7/14	53.72(12/A)	落選			7/15			
25	ハンマー投	服部 優充	中京大学	70.02	93.8	7/11	65.70(11/B)	落選			7/13			
26	やり投	畦地 将史	慶応義塾大学	69.33	87.4	7/13	60.56(12/B)	落選			7/14			
—	4×100mR	福島-宮本-上山-安田	—	—	—	7/13	39.18	決勝進出 SB (1/h3)			7/14	39.23 4位入賞		
—	4×400mR	森-澤-後藤-白尾	—	—	—	7/14	3:10.06	落選 (3/h1)			7/15			
女子	種目	氏名	所属	自己ベスト	達成率(%)	日付	予選		準決勝		決勝			
1	200m	青野 朱季	山形中央高等学校	23.61	98.7	7/13	23.93 +0.7m/s (4/h5)	準決勝進出	7/13	24.60 -0.5m/s (5/h1)	落選	7/14		
2	800m	川田 朱夏	東大阪大学	2:02.71	99.5	7/10	2:05.08 (1/h3)	準決勝進出	7/11	2:03.37 (3/h3)	決勝進出	7/12	2:03.57 6位入賞	
3	800m	塩見 綾乃	立命館大学	2:02.57	99.1	7/10	2:05.13 (1/h1)	準決勝進出	7/11	2:03.72 (3/h2)	落選	7/12		
4	1500m	廣中瑠璃佳	長崎商業高等学校	4:17.21	99.3	7/13	4:19.03 (8/h2)	決勝進出			7/15	4:21.31 11位		
5	3000m	田中 希実	ND28AC	8:54.27	100.0						7/11	8:54.01 金メダル PB		
6	3000m	和田 有葉	名城大学	9:01.36	100.2						7/11	9:00.50 4位入賞 PB		
7	5000m	藤原美咲	名城大学	15:45.79	99.0						7/10	15:55.74 7位入賞		
8	5000m	森林 未来	デンソー	15:31.62	90.6						7/10	17:08.55 14位		
9	100mH	吉田 唯莉	筑波大学	13.45	99.3	7/13	13.88 -1.1m/s (2/h6)	準決勝進出	7/14	13.55 +0.9m/s (5/h2)	落選	7/15		
10	400mH	関本 萌香	早稲田大学	58.83	99.4	7/11	59.16 (3/h2)	準決勝進出 SB	7/12	59.48 (6/h2)	落選	7/13		
11	400mH	吉田 佳純	駿河台大学	58.43	96.4	7/11	1:00.61 (4/h5)	落選	7/12		7/13			
12	3000mSC	西山未奈美	松山大学	10:17.38	102.8	7/10	10:02.89 (3/h1)	決勝進出 PB			7/13	10:00.49 9位 PB		
13	3000mSC	野末 侑花	北九州市立高等学校	10:15.07	96.2	7/10	10:39.24 (9/h3)	落選			7/13			
14	10000mW	藤井菜々子	エディオン	45:24.35	99.4						7/14	45:08.68 4位入賞 PB		
15	走幅跳	高良 彩花	園田学園高等学校	6.44	98.9	7/12	6.17 +1.1m/s (5/A)	決勝進出			7/13	6.37 +1.2m/s 銀メダル		
16	走幅跳	河添 千秋	松山北高等学校	6.26	92.8	7/12	5.81 +0.1m/s (9/B)	落選			7/13			
17	三段跳	—	—	12.96	—	7/14	—	—			7/15			
17	砲丸投	尾山 和華	福岡大学	15.78	90.2	7/11	14.23 (8/A)	落選			7/11			
18	円盤投	齋藤 真希	鶴岡工業高等学校	52.38	95.6	7/10	49.84 (9/B)	決勝進出			7/12	50.10 8位入賞		
19	やり投	桑添 友花	筑波大学	56.86	97.9	7/10	52.04 (3/A)	決勝進出			7/11	55.66 銀メダル		
20	やり投	武本 紗栄	大阪体育大学	56.44	86.5	7/10	48.80 (7/B)	落選			7/11			
—	4×400mR	塩見-青野-関本-川田	—	—	—	7/14	3:36.70	落選 SB (3/h2)			7/15			

表4 第17回U20世界陸上競技選手権 日本選手団役員一覧

No.	役職	氏名	所属
1	監督	杉井 将彦	強化育成部 U20オリンピック強化コーチ
2	ヘッドコーチ兼コーチ(短距離)	松永 成旦	強化育成部 オリンピック強化スタッフ 短距離・ハードル主任
3	コーチ(短距離)	小野原英樹	強化育成部 オリンピック強化スタッフ 委員(短距離)
4	コーチ(短距離)	佐藤真太郎	強化育成部 オリンピック強化スタッフ 委員(短距離)
5	コーチ(ハードル)	雪下 良治	強化育成部 オリンピック強化スタッフ 委員(ハードル)
6	コーチ(ハードル)	吉田真希子	強化育成部 オリンピック強化スタッフ 委員(ハードル)
7	コーチ(長距離)	荻原 知紀	強化育成部 オリンピック強化スタッフ 中長距離・競歩主任
8	コーチ(長距離)	中山 隆	強化育成部 オリンピック強化スタッフ 委員(長距離)
9	コーチ(競歩)	小坂 忠広	強化育成部 オリンピック強化スタッフ 委員(競歩)
10	コーチ(跳躍)	伊藤 信之	強化育成部 オリンピック強化スタッフ 跳躍主任
11	コーチ(跳躍)	安田 覚	強化育成部 オリンピック強化スタッフ 委員(跳躍)
12	コーチ(跳躍)	小松 隆志	強化育成部 オリンピック強化スタッフ 委員(跳躍)
13	コーチ(投擲)	宮成 康蔵	強化育成部 オリンピック強化スタッフ 委員(投擲)
14	コーチ(投擲)	中野 美沙	-
15	コーチ	富山 朝代	-
16	ドクター	金子 晴香	医事委員会 委員
17	トレーナー	砂川 祐輝	医事委員会 トレーナー部 委員
18	トレーナー	大桃 結花	医事委員会 トレーナー部 委員
19	総務・渉外	大橋 祐二	強化育成部 U20コーディネーター
20	渉外	岩瀧 一生	日本陸上競技連盟事務局 強化普及部
21	広報	廣瀬 静香	日本陸上競技連盟事務局 事業部

ユースオリンピックアジア地区予選会(バンコク/タイ)報告

強化委員会 U20 オリンピック強化コーチ 杉井将彦

1. はじめに

第3回ユースオリンピックのアジア地区予選会が7月4～5日バンコクで開催された。日本選手団は男子12名、女子8名、スタッフ9名の総勢29名で臨んだ。この派遣に対しては懸念材料が多く(ユースオリンピックの派遣日程と秋の国体、U18日本選手権の日程が重なる。高校3年生が派遣された場合入試スケジュールと重なる可能性がある等)、派遣を希望する選手がどの程度いるのか心配された。実際にはユース世代の上位選手から数多くの出場意志を示していただき、その中からエントリー締め切り前までの記録を参考に代表選手を選出した。

2. 大会概要

ユースオリンピックはいままで8月に開催されていたため、アジア地区予選会は5月開催であった。しかし今回の第3回大会は10月に南半球のブエノスアイレス/アルゼンチンで開催されることになり、それに伴いアジア地区予選会も7月に開催されることになった。

アジア代表としての派遣枠は種目によって異なり、派遣枠の多い男子100mは8人、200mが4人に対し1500mは1人。女子についてはほとんどの種目が1～2人の派遣枠である。まずは種目毎に設定されている派遣枠以内の順位に入賞することがユースオリンピックに出場する条件となっている。バンコクは高温多湿の環境であり、夏の暑さはまだ慣れていない日本選手は競技環境にとても苦労していた。そのうえ今回の会場となったジャバニーズスタジアムには競技場付設のサブグラウンドがなく、ウォームアップエリアも水はけの悪い芝生の広場が設定されていた。そのため日本選手の多くはスタジアム前の芝生スペースを使ってウォーミングアップをするなど工夫をしながら準備をしていた。また跳躍種目はフィールド内の扇状部分を

使った競技であったが、2種目同時スタートにも係わらず助走路は逆方向で設定されているなど、条件が悪い中での試技となるなど国内では経験しない環境で競技をした。

3. 日本人選手の結果

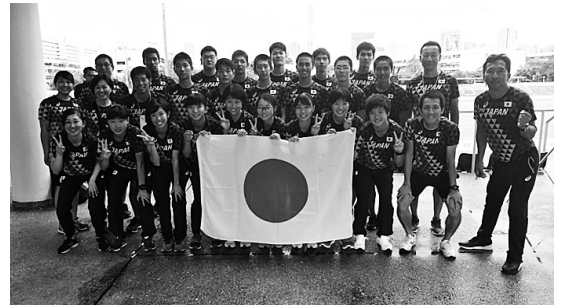
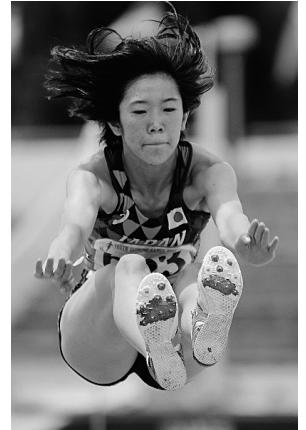
メダル獲得数は金メダル9個、銀メダル5個、銅メダル3個と、参加20名中17名がメダルを獲得する活躍であった。男子100mの池田成諒選手(島原高校)は決勝で優勝と0.1秒差で2位となったが、予選では不正スタートによりレーンを離れる判定を受けた。しかしスタートシステムの誤作動が続いたことで、「Under protest」「I am not moving」「I will run」など英語で審判に対しアピールすることでレースに復帰することが許された。今回はスタートシステムの不具合が原因であったことからレースへの復帰が認められることになったのだが、初めての国際大会で納得のいかない判定に対し、諦めず英語でアピールをしてレースに復帰したことは立派であった。女子100mに出場した新坂太佳子選手(西池AC)は中国選手2名とのゴール前の接戦を抜け出し見事優勝。男子棒高跳びは日本人選手2名の優勝争いとなり、中学記録保持者の古澤一生選手(前橋育英高校)が4m95で優勝、松本英紳選手(浜松西高校)も4m90で2位。男子走り幅跳びの和田晃輝選手(太成学院大学高校)は2位ではあったが自己記録を11cm更新し高2歴代11位の7m58を記録した。女子走り幅跳びでは中津川亜月選手(浜松市立高校)がセカンドベストとなる6m17で優勝。男子やり投げではダイヤモンドアスリートの中村健太郎選手(清風南海高校)が歴代3位となる72m04の自己記録で2位。予選がなく一発決勝となった男子400mHは出口晴翔選手(東福岡高校)が優勝。また高温多湿のバンコクでの中長距離・競歩種目は厳しい戦いとなったが、男子1500mは中学記録保持者の石田洸介選手(東

京農大第二高校)、3000mでは梶山林太郎選手(世羅高校)が優勝。女子も800mで上田万葵選手(舟入高校)、1500m金光由樹選手(岡山操山高校)、3000m菅田雅香選手(東海大福岡高校)がそれぞれ優勝、同じく3000mで城所日和選手(岡崎学園高校)が3位に入賞した。競歩は男女とも暑さとの戦いとなり熱中症の心配をする中での競技となったが、男子はトラックでの10000mW初出場の岩川祐介選手(浜北西高校)が3位。女子5000mWで玉利朱音選手(川西緑台高校)が2位に入賞した。

4. 終わりに

日本は前回の参加人数(19名)から1名増の20名の選手を派遣した。競技結果も参加20名に対しメダル獲得数が17個、ユースオリンピックターゲットメンバーに14名が入るなど大変効率の良い活躍であり、今回の派遣人数は適正であったと考える。しかし今大会の特徴としてカザフスタンが選手50名、中国に至っては選手役員で100名弱の大選手団を派遣したように、前回大会と比較して派遣人数が著しく増加している国があることが特徴として上げられる。これはいままで2年ごとに開催されていたU18世界選手権が、昨年のナイロビ/ケニア大会で最後となったこと

が一因であると考えられる。このようにユースカテゴリーの世界大会がユースオリンピックだけになったことから、アジア各国のこの大会への取り組みが変わってきている。今後も同様のアジア代表枠を確保しユースオリンピックに出場するためには、アジア地区予選への派遣人数を増やすなどの対策が必要となるように思う。また、ユースカテゴリーの強化育成方針(国際経験)を見直し、来年開催予定のアジアユースへの派遣人数についても検討が必要となると感じた。今回アジア地区予選を勝ち抜いた選手の中から、一人でも多くの選手がユースオリンピック出場を果たすこと願うとともに、ユースオリンピックでの活躍を期待したい。



選手

種目	氏名	所属	学年	生年月日	結果
男子 100m	池田 成諒	島原高校	2年	2002/02/13	銀メダル 10秒69 (-0.2)
男子 100m	塚本 ジャスティン 惇平	城西大城西高校	3年	2001/03/22	—
男子 1500m	石田 洸介	東農大第二高校	1年	2002/08/21	金メダル 4分03秒63
男子 3000m	梶山林太郎	世羅高校	3年	2001/02/19	金メダル 8分42秒07
男子 400H	出口 晴翔	東福岡高校	2年	2001/09/23	金メダル 52秒53
男子 10000W	岩川 祐介	浜北西高校	3年	2001/03/10	銅メダル 47分45秒30
男子 10000W	小林 貴太	丹羽高校	3年	2001/01/21	5位 51分59秒38
男子 走高跳	江頭 亮	大塚高校	2年	2001/10/12	7位 2m00
男子 走幅跳	和田 晃輝	太成学院高校	2年	2001/09/26	銀メダル 7m58(+0.8) PB
男子 棒高跳	古澤 一生	前橋育英高校	1年	2002/07/05	金メダル 4m95
男子 棒高跳	松本 英紳	浜松西高校	2年	2002/01/12	銀メダル 4m90
男子 やり投	中村健太郎	清風南海高校	2年	2001/08/01	銀メダル 72m04 PB
女子 100m	新坂太佳子	西池AC	1年	2002/07/16	金メダル 12秒29 (+1.2)
女子 800m	上田 万葵	舟入高校	2年	2002/01/09	金メダル 2分08秒28
女子 1500m	金光 由樹	岡山操山高校	3年	2001/02/22	金メダル 4分24秒21
女子 3000m	菅田 雅香	東海大福岡高校	3年	2001/03/09	金メダル 9分40秒82
女子 3000m	城所 日和	岡崎学園高校	2年	2001/10/31	銀メダル 9分57秒54
女子 5000W	玉利 朱音	川西緑台高校	3年	2001/01/02	銅メダル 25分58秒72
女子 走幅跳	中津川亜月	浜松市立高校	2年	2001/06/28	金メダル 6m17(+0.9)
女子 やり投	中村 結香	若松商業高校	3年	2001/02/20	銅メダル 51m10

スタッフ

役職	氏名	所属	
監督	杉井 将彦	浜松市立高等学校	(強化育成部U20オリンピック強化コーチ)
短距離コーチ	原田 隆弘	クレーマージャパン	(強化育成部オリンピック強化スタッフ)
中距離コーチ	岩本 真弥	世羅高等学校	(強化育成部オリンピック強化スタッフ)
跳躍コーチ	平井 勇氣	YNUスポーツアカデミー	(強化育成部オリンピック強化スタッフ)
跳躍コーチ	西野 弥希	星稜高等学校	(強化育成部オリンピック強化スタッフ)
投擲コーチ	辻 弘雅	清風南海高等学校	
競歩コーチ	塚田美和子	岩手県文化スポーツ部スポーツ振興課	(強化育成部オリンピック強化スタッフ)
トレーナー	矢島 友美	T.S Serve Trainer Team	
渉外	平野 了	日本陸上競技連盟事務局	

第5回日中韓3カ国交流陸上競技大会報告

監督 山崎一彦

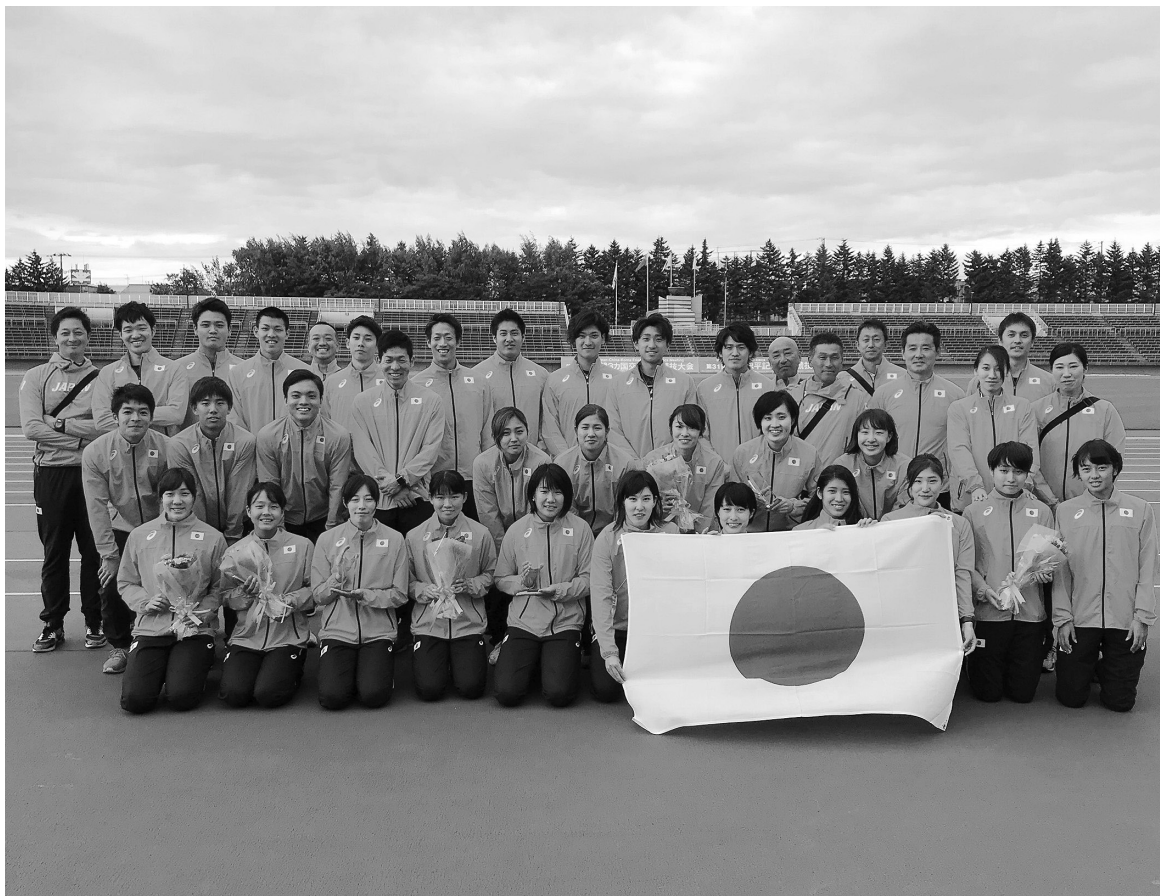
本年は、2019年世界選手権参加資格を取るためのワールドランキング（以下：WR）導入前のトライアルの要素を持って、海外競技会に臨んでいくことが強化方針である。

その中で、6月下旬に開催された日本選手権直後の日程であったが、地元開催であることや、WR制度を意識したことで、日本トップ選手が通常年よりも多く出場する形となった。また、日本陸連の尽力により、本年の大会はアジアパーミット（アジア陸連公認大会）の格付けとなった。本年9月からIAAFワールドランキング・スコアの有効期間となるが、WRの大会スコアランク格付けとしては、日本GPプレミアよりも高くなる。さらには例年であると、高順位を取れる大会であるため、高記録を出すことができればWRポイントは高くなっていくことになる。来年度はどのようになるかは未定であるが、アジア競技会にも目を向けて、今までの目の付け所とは異なることも意識しながら大会へ向かうこととなった。

3カ国の総合順位は、総合優勝および男女とも優勝し

た。その中でも特筆すべき結果としては、男子やり投の新井涼平が80m83の大会新記録で優勝した。昨シーズンから非常に厳しい結果であったが、今シーズンは80m台を複数本投げている、あと一日で完全復活というところまできている。他のアジア大会組では男子棒高跳の山本聖途が5m50で優勝したが、良い跳躍も数本あったことからアジア大会は、さらなる飛躍ができそうであった。男子110mHの高山峻野が13秒65で優勝した。日本選手権と同様に良い動きを見せていたことからアジア大会では、メダル獲得を視野に入れて欲しい。誌面の都合上、全ての競技者について講評はできないが、大学生も積極的に参加し、近い次世代を担う競技者になりそうな人材も多かった。来年からは大会の位置付けが変化してくるので大学生もこのような競技会には積極的に参加していただくことも想定しておく必要があると感じた。

大会運営者の協力のもと、急なやり投ピットの変更などアスリートファーストの大会であり、強化委員会として感謝を申し上げたい。



JAAF アスリート発掘・育成プロジェクト U13 アスリートクリニック 福井会場

普及育成委員会 普及育成部 部長 桜井智野風

U13アスリートクリニックは、小学校の中～高学年の子どもたちに「走る・跳ぶ・投げる」の楽しさを伝えるために、日本陸上競技連盟が競技者育成プログラムの考え方にに基づき全国で展開している講習会です。日本陸上競技連盟としては、将来の日本陸上競技界を担う未来のアスリートを発掘・育成すると同時に、開催の都道府県陸上競技協会と連携を深める機会として位置付けています。去る2018年7月28日（土）、本年度第1回目のU13クリニックを福井県坂井市三国運動公園陸上競技場において開催いたしました。

【新しいカリキュラムでの開催】

昨年度までのクリニックは、「走る、跳ぶ、投げる」の3種目を身体づくりの要素を織り込みながら、講師が午前・午後を通じて講習を行っていましたが、今年度からはもっと子どもたちに楽しんでもらおうとカリキュラムをリニューアルしました。

以前のクリニックからの主な変更点は以下の通りです。①子どもも保護者や指導者とともに講義を聴き、自分たちの身体について学ぶ。②午後は混成種目の記録会とする。③走種目は光電管を利用して記録を提示する。④クリニック特性ナンバーカードを装着する。

午前中は講義と走跳投の基本的な動きの講習を行い、午後は栄養の講義と記録会という構成です。午前の講義は、保護者やコーチと一緒に小学生の身体について話を聞きました。小学生期では、身体の成長を考えると専門種目の選択を焦ることはなく、様々なスポーツや運動を行うことが重要で、陸上競技でも走跳投のすべての種目を行うことが大切であることを学びました。その後、競技場に出て、遊びを交えた走跳投

の基本的な動きと、午後の記録会に備えて、走幅跳、走高跳、ジャベポール投の基本に関して講習を受けました。午前中の最後は全員が50m走のタイムトライアルを行いました。測定には今年度より導入した光電管を使用した100分の1秒単位で測定可能なシステムにより行いました（写真参照）。

昼食を食べた後は、保護者、指導者・コーチとともに子ども達も栄養学の講義を受けました。成長期の子どもにはどのような食事内容や生活リズムが大切なのかを学びました。その後、競技場に出て行われた混成競技の記録会ですが、「100m＋走高跳」「走幅跳＋ジャベポール投」のどちらかを選んで挑戦し、終了後は記録証を受け取りました。

【子ども達の反応】

今回のクリニックでは、子ども達も講義と実技の講習を実施するという新しいカリキュラムとなりましたが、子供たちから「楽しかった」「勉強になった」という意見を聞き大変うれしく思いました。また新しい試みとして、クリニックに参加している意識を高めてもらうとともに午後の記録会で使用するために、特性のナンバーカードを胸に張り付けての講習となりました。「気持ちは競技会」という雰囲気も感じられ、午後の記録会ではベスト記録を出す子どもも多く見られました。指導者・コーチの皆様の献身的な協力もあり、非常に活気の満ちたクリニックとなったと思います。

【最後に】

今回のクリニックを通じて、参加した小学生はもとより、保護者、指導者・コーチ、各関係団体など多くの皆さんが、成長期の子どものスポーツ活動について



理解を深めていただき、今後の生活やスポーツ活動を行う上での参考としていただければ幸いです。U13クリニック福井会場を実施するにあたり、ご協力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げるとともに、福井の子どもたちが大きく羽ばたくことを祈念いたします。



- [趣 旨] スポーツの基本となる「走」「跳」「投」の運動を小学生に楽しく体験しながら学んでもらうと同時に、小学生陸上競技指導者に正しく学んでもらうために、日本陸上競技連盟が講師を派遣して実施する。
- [主 催] 公益財団法人日本陸上競技連盟
- [主 管] 一般財団法人福井県陸上競技協会
- [協 賛] アシックスジャパン株式会社
デンカ株式会社
- [会 場] 三国運動公園陸上競技場
- [参加者] 県内小学生（5・6年生）およびその指導者・保護者を対象とする

時間	選手・指導者および保護者
09:00~9:15	開講式 挨拶 日本陸連 氏名：東川安雄 開催陸協 氏名：明石則夫 講師紹介 日本陸連 氏名：上野祐紀子、藤原泰裕、桜井智野風、大畑好美 諸連絡 開催陸協 氏名：永岡 秀典
09:15~10:00	理論講習：発育発達 講師：東川安雄
10:00~12:15	実技：基本の運動および種目別(走跳投の基本) ウォーミングアップ 講師：上野祐紀子 走 講師：桜井智野風 跳 講師：藤原泰裕 投 講師：上野祐紀子 50m走測定
12:15~13:30	昼食(30分) 栄養講習(45分※予備時間15分) 講師：大畑好美
13:30~15:00	混成競技 *A(100m+走高跳)・B(走幅跳+ジャベール) A or Bのどちらかを選んで挑戦 Aグループ担当：桜井智野風、東川安雄 Bグループ担当：上野祐紀子、藤原泰裕
15:00~15:15	閉講式 参加者代表あいさつ 日本陸連講評 氏名：桜井智野風 開催陸協あいさつ 氏名：明石則夫 ※集合写真撮影

クロスカントリーラン in 砧公園(#キヌクロ)

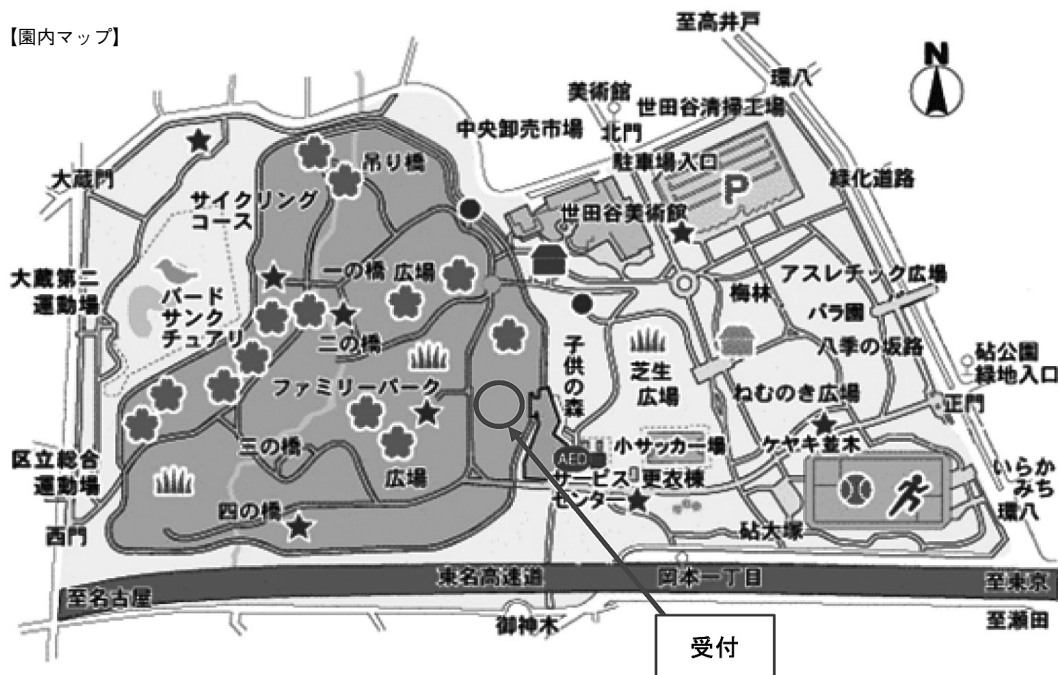
2018年8月25日(土)に日本陸上競技連盟とオトナのタイムトライアル実行委員会と新たに、東京・世田谷 砧公園にて、クロスカントリー大会を開催いたします。

- 1 名称: クロスカントリーラン in 砧公園 (#キヌクロ)
 ※本イベントは公益財団法人日本陸上競技連盟の公認競技会ではありませんので、記録は公認記録にはなりません。
- 2 日時: 2018年8月25日(土) 8時~12時 ※雨天決行
- 3 場所: 東京世田谷・砧公園特設コース (1周1600m)
- 4 種目: キッズ: 1600m
 一般: 1600m
- 5 定員: 600名 (キッズ: 100人、一般: 500人)
- 6 参加資格: キッズ: 小学校4年生以上
 一般: 10kmを70分以内 (もしくは5kmを35分以内) で走ることができる方
 ※中学生以下の方は保護者同伴で参加してください。
 ※公益財団法人日本陸上競技連盟登録(陸連登録)は必要ありません。
- 7 参加料: キッズ: 1,000円
 一般: 3,000円
 ※参加料には保険料が含まれます
- 8 申込: Web申込(申込開始2018年7月27日(金)12:00)
 ※Web申込のみとなりますので、予めご了承ください。
 ※先着順となりますので定員になり次第締め切りとなりますので予めご了承ください。
- 9 内容: ・トップ選手と一緒に走りクロスカントリーの楽しさと走行する際のルール、マナーを学ぶ。
 ・1組20名を目安として組分けを行い、時間差をつけたウェーブスタート。

・ランナーに向けたマナー啓発と会場及びその周辺のクリーンアップ運動を実施。

- 10 主催等: 主催: 公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人東京都公園協会
 協力: OTT (オトナのタイムトライアル) 実行委員会
- 11 問合せ先: 公益財団法人日本陸上競技連盟
 OTT担当: 畔森 TEL: 03-5321-6580 (受付時間: 10時~18時)
- 12 会場: 【住所】 世田谷区砧公園1-1
 アクセス: 【交通】 東急田園都市線「用賀」から徒歩20分または東急コーチバス(美術館行き)「美術館」下車
 小田急線「千歳船橋」から東急バス(田園調布行き)「砧公園緑地入口」下車
 小田急線「成城学園前」から東急バス(都立大学駅北口行き)「岡本一丁目」下車
 【問い合わせ】 砧公園サービスセンター
 電話: 03-3700-0414
 【ホームページ】 公園へ行く! 砧公園
<http://www.tokyo-park.or.jp/park/format/index004.html>
 【公式Twitter】 @ParksKinuta 都立砧公園
- 13 その他: ※個人情報の取扱について
 お申込みの際に頂いた個人情報につきましては、当イベントに関わるご案内のみに使用します。また、お預かりした個人情報は、その取り扱いについて万全を期すとともに、ご本人の同意なしに第三者に開示提供することはございません。但し、法令等により開示を求められた場合を除きます。

【園内マップ】



夏のOTTは「キヌクロ」です

オトナのタイムトライアル事務局

暑い日が続きますが、みなさん走っていますか？
オトナのタイムトライアル事務局です。

たくさんの「夏のOTTはいつですか？」というお問い合わせ、ありがとうございます。うれしかったです。

お待たせをしてしまいましたが、ようやく発表できます。

日程は8月25日（土）、場所は、東京・世田谷の砧公園（きぬたこうえん）。

そこで芝生と木陰を走るクロスカントリーレースを開催します。

レース名は「クロスカントリーラン in 砧公園」、略して「キヌクロ」です。

砧公園とは世田谷区の環八沿いにある大きな公園。もともとゴルフ場だったこともあり、広大な森の中と一面の芝生。

ふだんは親子連れや散歩をする人々でにぎわう公園ですが東京23区でこれだけ芝の上を走れる場所はないということもあり、箱根駅伝や実業団のチームも利用している「隠れたランニングの聖地」としても知られています。

旭化成、カネボウ、住友電工、そしてOTTでもお馴染みの横田真人コーチが率いるNIKE TOKYO TC。

最近ではプロランナーになった神野大地選手もこの砧公園一帯を拠点として練習を行っていると聞きます。

2020年の東京オリンピック時にはスター揃いのアメリカ代表チームもキャンプ拠点をこのエリアに置く予定になっています。

箱根駅伝を目指す大学生たちも砧公園を走っていますが、一番有名なのはご近所の駒澤大学でしょう。

ほぼ毎日、駒澤の選手の誰かがこのクロカンコースを走っていますし、選手を眺める大八木監督の姿は、砧公園ではお馴染みの風景です。

そして脚や足底への負担が少なく、トラックやロードとは違う鍛錬になるクロスカントリーは、欧米では多くのレースが開催されており、とてもメジャーです。

イメージとしては、ロードレースとトレイルランニングの中間といったところでしょうか。

箱根駅伝の強豪、東洋大学や青山学院大学などは、練習拠点到るクロカンコースをつくっているほどです。

今回、キヌクロでは駒澤大学をはじめとした選手たちが練習で使っているクロカンコースを使って、タイムトライアルレースを行ってみようと思います。

大八木監督がコロコロと手押しで計測したといわれるコース。

われわれもコロコロを転がし、たどってみましたら、なんとこれが「ぴったり1.6km」でした。

つまり、ちょうど1マイルのクロカンコースだったのです。

その1マイルで初めてクロカンを走る人も、OTTで最終組を走るような速いランナーも、自分なりの走り芝生と土のコースを「攻めて」、みんなでタイムトライアルを楽しみましょう。

多くの実業団や箱根ランナーが走り続けてきた1マイルで、クロカンの「持ちタイム」ができる……楽しくありませんか？

今年の夏は過酷な暑さとなっています。

ですので、キヌクロは日差しが強くなる前の朝に集まり、お昼には終わるようなスケジュールを考えてます。タイムトライアルの後は距離を踏むために走り続けるもよし、公園でシートをひろげ、ピクニックをはじめるもよし、スタッフや走った人々で走ったあとの余韻も楽しめるような、そんな「キヌクロ」にしたいと思います。

ランナーのみなさんも、ボランティアスタッフで参加の方も、過去に例のない「都心開催のクロスカントリーレース」にどうぞふるってご参加ください。

砧公園で、お待ちしております！

大会観戦ガイド

2018.8.1時点

若きアスリートの熱き戦いが続きます！

全国小学生陸上は日産スタジアム、全日本中学陸上は岡山県総合グラウンド陸上競技場、全国高校陸上選抜はヤンマーフィールド長居が激戦の地！

是非、会場で応援して下さい！

“日清食品カップ” 第34回全国小学生陸上競技交流大会

▼期日：8月18日（土）

開会式 08：20～

競技会 09：15～16：00

フレンドシップパーティー 16：45～17：30

▼会場：神奈川県・日産スタジアム

神奈川県横浜市港北区小机町3300

▼アクセス：

JR新横浜駅から徒歩15分

地下鉄新横浜駅から徒歩12分

JR小机駅から徒歩7分

▼種目：

〈男子〉 7種目

6年生100m、5年生100m、80mハードル、走幅跳、走高跳、ジャベリックボール投、4×100mリレー

〈女子〉 7種目

6年生100m、5年生100m、80mハードル、走幅跳、走高跳、ジャベリックボール投、4×100mリレー

▼参加者：小学生5・6年生に該当する年齢で、各都道府県での選考会を経て選ばれた代表選手22名と指導者4名とする。

▼放映予定

8月26日（日）15：30～17：00 NHK Eテレ

▼問い合わせ先：

日本陸上競技連盟

TEL：03-5321-6580 FAX：03-5321-6591

日本陸連WEB内大会ページ

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1268/>

平成30度全国中学校体育大会 第45回全日本中学校陸上競技選手権大会

▼期日：8月18日（土）～21日（火）

開会式 8月18日（土）14：30～15：20

競技会 8月19日（日）09：00～18：30

8月20日（月）09：00～18：30

8月21日（火）09：30～16：00

閉会式 8月21日（火）16：30～16：50

▼会場：シティライトスタジアム（岡山県総合グラウンド陸上競技場）

岡山市北区いずみ町2-1-11

▼アクセス：

〈飛行機〉

岡山空港からバスで約30分（岡電バス・中鉄バス 2番のりば 岡山駅西口行→「岡山大筋」で下車）

〈バス〉

JR岡山駅西口から約10分、JR岡山駅東口から約15分

▼種目：

〈男子〉 13種目

100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、110mハードル、4×100mリレー、走高跳、棒高跳、



昨年度の大会より



昨年度の大会より

走幅跳、砲丸投 (5.000kg)、四種競技 (110mハードル、砲丸投 (4.000kg)、走高跳、400m)

〈女子〉 10種目

100m、200m、800m、1500m、100mハードル、4×100mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投 (2.721kg)、四種競技 (100mハードル、走高跳、砲丸投 (2.721kg)、200m)

▼放映予定:

8月21日 (火) 14:20 ~ 16:00 NHK Eテレ(LIVE)

▼問い合わせ先:

(大会開催前)

平成30年度全国中学校体育大会岡山市実行委員会
「第45回全日本中学校陸上競技選手権大会事務局」
TEL: 086-803-1543 FAX: 086-803-1885

(大会開催中) 8月18日 (土) ~ 21日 (火)

[昼間] シティライトスタジアム (岡山県総合グラウンド陸上競技場)

TEL: 086-803-1543

[夜間] 岡山ロイヤルホテル

TEL: 086-255-1111

大会ホームページ

<http://2018zenchu-okayama.com/>

第53回全国高等専門学校体育大会 陸上競技

▼期日: 8月18日 (土) ~ 19日 (日)

▼会場: 熊本県民総合運動公園陸上競技場 (えがお健康スタジアム)

熊本県熊本市東区平山町2776

▼アクセス:

〈飛行機〉

阿蘇くまもと空港からタクシーで10 ~ 15分

〈バス〉

JR鹿児島本線 熊本駅下車 タクシーで45分/バスで50分

JR豊肥線 光の森駅下車 (熊本駅から290円) タクシーで5 ~ 10分

▼種目:

〈男子〉 18種目

100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110mハードル、400mハードル、3000m障害物、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、走幅跳、三段跳、棒高跳、砲丸投 (6kg)、円盤投 (1.75kg)、やり投

〈女子〉 11種目

100m、200m、800m、3000m、100mハードル、4×100mリレー、走幅跳、走高跳、砲丸投 (4.0kg)、円盤投 (1.0kg)、やり投

▼問い合わせ先:

第53回全国高等専門学校体育大会陸上競技事務局
熊本高等専門学校八代キャンパス学務課内
TEL: 0965-53-1233

第6回全国高等学校陸上競技選抜大会

▼期日: 8月25日 (土) ~ 8月26日 (日)

▼会場: 大阪府・ヤンマーフィールド長居
大阪府大阪市東住吉区長居公園1-1

▼アクセス:

地下鉄御堂筋線「長居」、JR阪和線「長居」または「鶴ヶ丘」下車

▼種目:

〈男子〉 10種目

スプリントトライアスロン (60m・150m・300m)、600m、3000m、110mH、300mH、2000m障害物、3000m競歩、二段跳、砲丸投、五種競技 (100m・走幅跳・砲丸投・走高跳・400m)

〈女子〉 12種目

スプリントトライアスロン (60m・150m・300m)、600m、2000m、100mH、300mH、2000m障害物、3000m競歩、四段跳、棒高跳、砲丸投、ハンマー投、四種競技 (100mH・走高跳・砲丸投・200m)

▼問い合わせ先:

日本陸上競技連盟
TEL: 03-5321-6580 FAX: 03-5321-6591
大会ホームページ
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1271/>



昨年度の大会より



JAAF TOYAMA 一般財団法人富山陸上競技協会

〒939-8234 富山市南中田368番地
富山県総合運動公園陸上競技場内
TEL.076-461-5917 FAX.076-461-5927
http://www.jaaf-toyama.net/

広がるスポーツの意義、可能性と協会運営

国は「第2期スポーツ基本計画」で、「一億総スポーツ社会」の実現を目指すとしている。また、本年4月に日本体育協会が日本スポーツ協会に名称を変更し、これまで以上にスポーツの意義と価値を守り広め、さらに大きく育てることに努めるとしている。

本県では、10月に第4回目となる富山マラソンが開催される予定であり、本協会もこれに全面的に協力している。歴史と文化の街並みに触れ、雄大な立山連峰を望むコースは、ランナーからも好評で、第1回目以降、県内のマラソン愛好家が急増し、朝夕問わず街中でジョギングをする人がとても目立つようになった。また、昨年度、本県は国民体育大会の男子400mRにおいてはじめて入賞した。これは、小中高一般における強化普及活動の充実の賜物と考えている。このことから、小学生が所属するクラブチームを登録し、その活動のさらなる充実発展に役立てたいと考えている。一方で、全国的にスポーツに関わる不祥事が数多く報道されている状況を踏まえ、本協会においても、倫理規範の確立と問題の未然防止のための啓蒙に努めていかなければならない。

本協会の果たすべき役割は、さらにその幅を広げ、重要性を増している。今後もスポーツや陸上競技を取り巻く情勢を見極めながら、有益で健全な協会の運営に努めたい。

JAAF ISHIKAWA 一般財団法人石川陸上競技協会

〒921-8833 野々市藤平144-5
TEL.076-227-9410 FAX.076-227-9410
http://gold.jaic.org/ishikawa/

第102回日本陸上競技選手権大会50km競歩ならびに全日本競歩輪島大会が4月15日に輪島市で開催されました。今回からコースの変更があり、1kmを往復する1周2kmのコースになりました。

50km競歩では野田明宏選手（自衛隊体育学校）が日本歴代8位的好成绩で初優勝し、また、今大会から国内初の女子50km競歩がオープン種目はありますが、9名の参加で開催され、園田世玲奈選手（中京大）が4時間31分52秒で初代優勝者となりました。

平成30年度本県の素晴らしい成績として、昨年のU20日本陸上競技選手権大会女子100mHで優勝し、本年U20アジア陸上競技選手権大会女子100mHで石川県出身の吉田唯莉（筑波大学）が見事に優勝したことがあげられます。また、今年のU20世界陸上競技選手権大会に出場いたしました。

第102回日本陸上競技選手権大会男子走高跳では大田和宏（日本体育施設）が3位入賞を果たしました。

高校生に目を向けると、6月14日（木）～17日（日）に第57回北信越高等学校陸上競技対校選手権大会が福井市で開催され、男子200m・400m 金田理希（金沢高校）、1500m カランジャ・ジョスファット（遊学館高校）、110mH 町亮汰（星稜高校）、やり投本田涼太（羽咋高校）、女子800m 澤井柚葉（星稜高校）、三段跳宮口愛子（星稜高校）、七種競技水落らら（小松商業高校）が優勝し、インターハイでは優勝・入賞の期待がかかります。また、男子11人とリレー1チーム（2種目）、女子14人とリレー1チームが6位以上の入賞を勝ち取り、インターハイでの活躍が大いに期待されます。

以前お知らせしました西部緑地公園陸上競技場の日本海側最大のオーロラビジョンの使用が開始され、きれいな映像が映し出されています。（文責：副専務理事 澤田剛紀）

JAAF FUKUI 一般財団法人福井陸上競技協会

〒918-8585 福井市三十八社町33-66 フクビ化学工業株式会社内
TEL.0776-38-0360 FAX.0776-38-0361
http://www.fukui-jaaf.com/

2018年のシーズンが開幕しました。福井陸上競技協会としては、10月5日（金）から開催される「2018 ふくいしあわせ元気国体」の開催準備、選手強化に日々忙殺されております。

そのような状況のもと、2つのうれしい出来事がありました。一つめは『福井運動公園陸上競技場』に『9.98 スタジアム』という愛称がつき、先日5月27日（日）西川一成福井県知事をはじめ多数ご来賓をお迎えして除幕式を行いました。競技場の真正面には大きなモニュメントが掲示されました。専用のアプリをインストールし、モニュメントの前で写真を撮ると、昨年100mにおいて9秒98という日本新記録を樹立した桐生祥秀選手（日本生命）が映り込むというシステムになっています。各大会で、9.98スタジアムの前で多くの方が記念写真を撮っていました。本当にうれしく思います。

二つめは、先日開催された第102回日本陸上競技選手権大会において、金井大旺選手（福井県スポーツ協会）が110mHにおいて13秒36（+0.7）の日本新記録を樹立し優勝したことです。本当に素晴らしいスピードとハードリング技術です。このような選手とともに迎える福井国体において福井県代表選手が大いに活躍し、陸上競技、競技別天皇杯を獲得できることを心より期待しております。

（文責：専務理事 木原靖之）



JAAF NAGANO 一般財団法人長野陸上競技協会

〒381-0038 長野市東和田632 長野市営陸上競技場内
TEL.090-1867-7044 FAX.026-241-5155
http://nagano-rk.com/

第102回／第34回U20／日本陸上競技選手権大会 混成競技開催

2012年から連続7回目となる「日本混成」を

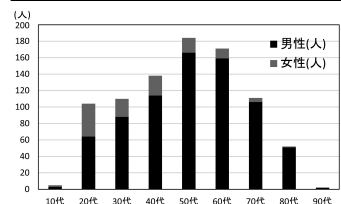
6月16日～17日、長野市営陸上競技場で開催しました。今回は、大会日が「北信越高校」と重なり最大のピンチでしたが、日本陸連から鈴木一弘競技運営委員長が直々に十種競技の審判長を担当され、JTOを含む22名の役員派遣、全国各地から12名のNTOの方々などのご協力により、無事、競技日程どおり問題なく終えることができました。ご協力を賜りましたすべての皆様改めて感謝申し上げます。

また、長野陸協では9年後の2027年開催予定の国体に向けて、4つのプロジェクトを立ち上げ、中でも芳川女性部長が中心になり女性審判数を現在の3倍にする目標の実現に向けて、委員会での討議、アンケート調査、各種視察など積極的な活動を展開しております。

（文責：代表理事・理事長 内山了治）

表1 長野陸協年代別審判員数(2017/12/31陸連登録データ)

性・年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	合計
男性(人)	2	40	22	24	18	12	8	1	0	124
女性(人)	40	38.5	29.0	17.4	9.8	7.0	4.5	1.9	0.0	141.1
男性(人)	3	64	88	114	166	159	106	51	2	753
女性(人)	60.0	81.5	80.0	87.9	90.2	95.0	95.5	98.1	100.0	85.9
合計(人)	5	104	110	138	184	171	111	52	2	877



陸協NEWS



JAAF
SHIZUOKA

一般財団法人静岡陸上競技協会

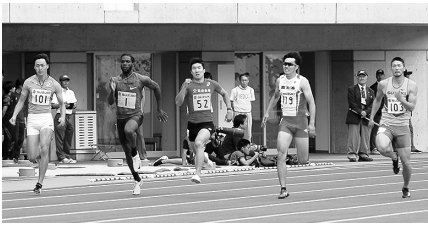
〒420-0839 静岡市葵区鷹匠1-14-31 吉野寿ビル2階
TEL.054-253-9801 FAX.054-253-9801
<http://www2.wbs.ne.jp/~nagata/t&t/>

静岡国際陸上大会

男子200mでションマククリーン選手がみごとに連覇。原翔太選手(スズキ浜松AC)が2位、注目を集めた桐生祥秀選手(日本生命)は5位。女子200mでは、福島千里選手(セイコー)が連覇し、地元出身の渡辺ひかる選手(駿河台大)が5位に入る活躍。また、小中学生のリレーチームが多数参加し、大いに盛り上がる大会となりました。

日本選手権

静岡県勢は、男子200mの飯塚翔太選手(ミズノ)が2年ぶり3度目の優勝、男子800mの川元奨選手(スズキ浜松AC)が6連覇、男子やり投の新井涼平選手(スズキ浜松AC)が5連覇、女子やり投の斉藤真理菜選手(スズキ浜松AC)が初優勝、混成競技では山崎有紀選手(スズキ浜松AC)が優勝しました。



男子200m
決勝

JAAF
AICHI

一般財団法人愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル7F
TEL.052-249-4363 FAX.052-249-4366
<http://www.aichi-rk.jp/>

愛知陸協登録会員で8月のアジア競技会(ジャカルタ)に、日本を代表して出場する選手は次の6名の方々です。

山口浩勢(3000mSC・愛三工業)、山本聖途(棒高跳・トヨタ自動車)、湯上剛輝(円盤投・トヨタ自動車)、丸尾知司(50kmW・愛知製鋼)、山西利和(20kmW・愛知製鋼)、市川華葉(100m・ミズノ)

特に、期待されるのは、6月の日本選手権で日本新記録を樹立し優勝した円盤投の湯上選手です。現在、絶好調で本大会において、再度の日本記録更新が期待されます。また、昨年のロンドン世界選手権50kmWで5位入賞した丸尾選手、棒高跳で日本選手権優勝者の山本選手もメダルの期待がかかります。

東海地区高校総体が6月に全国高校総体会場の伊勢で行われました。愛知勢の活躍が目立ち、特に女子20種目中14種目、男子8種目に優勝し、愛知県の強さを見せつけました。

インターハイの本番が益々楽しみとなりました。また、総合では男子豊川高校、女子至学館高校がそれぞれ優勝し、インターハイの総合優勝の期待も膨らみます。

若い有望な選手が多くいる愛知県、8月の全国小学生陸上(日産)、例年70名ほど出場する全国中学生陸上(岡山)、インターハイ(伊勢)、9月のインターカレッジ(等々力)、それぞれの大会において、若いアスリートの活躍を期待しています。

8月下旬には、国体、全国都道府県対抗駅伝の優勝を目指し、長距離・駅伝合宿が二泊三日(長野・富士見)で行われます。

(文責:専務理事 稲垣裕)

JAAF
GIFU

一般財団法人岐阜陸上競技協会

〒502-0841 岐阜市学園町3-49 仁科ハイツA-102
TEL.058-294-6494 FAX.058-294-6491
<http://www.gifu-riku.com/>

第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会をおえて

6月7日(木)から10日(日)の4日間にわたり第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会が岐阜市長川競技場で開催されました。日本で初めての開催、岐阜陸協にとって初めての国際大会の運営協力と初物尽くし。第17回大会視察から2年を経ての開催となりました。

国際大会を運営するための手順に驚きながらも大会が無事終了できました。これも、日本陸連をはじめ、ご支援ご協力をいただきました各企業、そして全国から2020東京オリンピック研修をかねて参加いただきましたNTOの皆さんのおかげと深く感謝しています。

アジアのジュニア選手の活躍を一目見ようと観戦に駆けつけた地元小中学生からは熱い声援が寄せられ大会を盛り上げてくれました。日本チームには地元選手として吉田選手(駿河大)が女子400mH優勝、山下選手(市岐卓商)男子円盤投3位、稲福選手(市岐卓商)男子砲丸投5位の3名が会場で大健闘!岐阜県開催に華を添えてくれました。記録的には、大会新記録5、大会タイ記録という結果でした。

大会終了後アジア陸連ダーラム会長から「スポーツ交流を超えた交流ができ感謝しています」との言葉をいただきました。このことは文化風習の異なるなかタイムテーブル作成に代表されるように様々な気づかいをしながらの運営でしたが大会成功にかけられる審判員全員の気持ちに十分に応わったものと安心しました。今後は今回の経験を生かし「選手・役員・観衆が一体となる競技会」「見せる競技会」を目指し岐阜陸協全体で取り組みたいと思います。

(文責:専務理事 黄倉寿雄)

JAAF
MIE

一般財団法人三重陸上競技協会

〒516-0023 伊勢市宇治館町510
三重交通Gスポーツの杜 伊勢 内
TEL.0596-22-8890 FAX.0596-63-5337
<http://www.mierk.jp/menu/index.htm>

ついに三重インターハイまであとわずかとなりました。三重陸協の強化委員会を中心とした選手強化の結果が試されます。三重県からインターハイへ出場する選手の数は昨年を大きく上回り、東海地区の強豪である静岡県も上回りました。また、各選手を見てみても全国で戦える記録をマークしている選手が多く、インターハイの大舞台で地元三重の高校生の活躍が見られるのではないかと期待しています。また、競技役員についても、昨年の10月中旬に新競技場が完成してから、常にインターハイの本番を想定した競技運営を行ってきました。選手だけでなく監督、観客など多くの皆様に「伊勢に来て良かった」と思ってもらえる大会にしたいと考えています。

6/22~24に山口県で行われた日本選手権において男子走高跳の衛藤昂選手(味の素AGF)が大会3連覇、女子100mの世古和選手(CRANE)が初優勝と三重県出身選手から2名の優勝者が出て、その優勝者2名を含む計9名の三重県選手が入賞をすることができました。また、7/7~8に行われた三重県選手権では3種目で県新記録、1種目で県高校新記録、7種目で大会新記録(大会タイ記録を含む)が誕生し、大学生、社会人も高校生に負けじと好成績を残しています。

2018年インターハイ、2020年全国中、2021年国体と三重県開催の全国大会が続きます。その幕開けとしての三重インターハイで成功を収めたいと思います。

(文責:広報部 中村恭和)

事務局からのお知らせ

◆◆日本陸連公式サイト&SNSに日本代表選手情報を掲載しております!◆◆

日本陸上競技連盟公式WEBサイト、公式SNSではジャカルタ2018アジア競技大会日本代表選手の結果や情報を随時更新し、ファンの皆さんにお届けいたします。アスリートと一緒に応援しましょう。

公式WEBサイト

代表選手意気込み、日本人選手全成績や最高記録&最高順位など情報満載でお届けします

<http://www.jaaf.or.jp/>

公式SNSアカウント

Twitter (@jaaf_official)、Facebook (@JapanAthletics)、Instagram (jaaf_official) にて結果、競技写真、選手情報などを随時配信いたします。



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩 (陸連会長)
- 友永 義治 (陸連副会長)
- 八木 雅夫 (陸連副会長)
- 尾縣 貢 (陸連専務理事)
- 麻場 一徳 (陸連強化委員長)
- 風間 明 (陸連事務局長)
- 高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

- 大嶋 康弘
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 青木 和浩
- 宮田 宏
- 廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>